但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石稅ヲ納ムルコトヲ得

製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　免許鑑札ハ貸借賣買及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事

故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石稅ノ査定ヲ經タル醬油其造石稅納期內ニ天災又ハ避クヘカラサル事故ニ因リ廢業ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受ケ置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ造石稅ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ步合ハ大藏大臣定ムル所ニ依ルヘシ但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港稅關ニ還納スヘシ

第十四條　醬油製造人ノ製造スル醬油ハ他ノ依託ヲ受ケ又ハ自家用料ニ供スルモノト雖モ總テ此稅則ニ從フヘシ

醬油製造人ハ製造場外ニ於テ自家用料ノ醬油ヲ製造スル

コトヲ得ス

第十五條　醬油請賣ヲ爲ス者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

其同居者亦同シ

第十六條　自家用料ノ爲メ製造シタル醬油ハ之ヲ賣渡スコトヲ得ス

第十七條　醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ屬スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ

但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此稅則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油製造ノ營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス仍ホ其醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十條　醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器ヲ沒收ス

第十條第十四條第二項ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者第八條第九條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及逋稅ヲ謀ル爲メ帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ第十五條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及容器製造器械ヲ沒收ス

第二十二條　第七條ヲ犯シタル者第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡讓渡又ハ消滅シタルトキハ其代金ヲ追徵ス

第二十四條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條　醬油製造人ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條　此稅則施行細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附則

第二十八條　北海道沖繩縣及東京府管下小笠原嶋伊豆七嶋ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ

第二十九條　此稅則施行以前ニ免許ヲ受ケタル醬油製造人ニシテ第一條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三日以內ニ管廳ニ屆出ヘシ

醬油稅則施行細則

明治二十一年八月三日
大藏省令第九號

第一條　稅則第一條ニ從ヒ製造免許ヲ受ケントスルモノハ其製造場ノ倉庫又ハ建物ノ棟數ニ拘ハラス都テ其一區域ヲ以テ一箇所トナシ之ニ關スル地所建物ノ位置及坪數ヲ

圖面ニ製シ願書ニ添ヘ管廳ニ差出スヘシ但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ檢査濟ノ醬油又ハ製造用諸器械ヲ藏置スルニ止マルモノハ管廳ノ許可ヲ受ケ製造場ノ附屬ト爲スコトヲ得

第二條　二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出テ會社ヲ設ケ營業ヲ爲スモノハ社則ヲ添ヘ其頭取ノ名ヲ以テ願出ヘシ

第三條　免許鑑札ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ醬油製造用器械ノ種類員數目錄ヲ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第四條　第一條及同條但書ノ倉庫建物第三條ノ製造用器械ニ增減變換ヲ生シタルトキハ其時々所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第五條　醬油製造人ハ毎年一月中其年仕込並査定ヲ受クヘキ見込石數並其製造方法ヲ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ但前年ノ製造方法ニ據ルモノハ其旨ヲ屆出ヘシ

新タニ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ其翌日ヨリ十五日以內ニ前項ノ屆出ヲ爲スヘシ

第六條　醬油製造人不在又ハ事故アルトキハ代人ヲ置キ稅則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第七條　醬油製造人他ヨリ醬油ヲ買入タルトキハ其石數年

月日買入先キヲ帖簿ニ記載シ置クヘシ

第八條　醤油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

前項ノ容器ハ左ニ掲クル方法ニ據リ其容積ヲ量リ租稅檢査員派出所ニ申出檢査ヲ受クヘシ但容器ニハ番號及管廳ノ烙印ヲ施スモノトス

丈量法

口徑（口頭ヨリ三寸下リタル箇所）胴徑（口底徑ノ中央）底徑（底板面箇所）孰レモ內測ニテ縱橫⊕圖ノ如ク度リ此縱橫徑ヲ和シ二ヲ以テ之ヲ除ス深サハ其桶ノ前後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑マテノ間ヲ丈量

シ之ヲ和シ五ヲ以テ之ヲ除ス

但尺度ハ都テ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨トス

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス）ヲ乘シ二ヲ以テ之ヲ除シ其容量ヲ得

容器中甕類其他異樣ノ容器ハ總テ前項ニ準シ量定スヘシ

其準シ難キモノハ便宜適實ノ方法ニ依リ量定スルモノトス

第九條　石數査定ノ際其入實容器測定ノ全量ニ滿タサル端數ハ左ノ算則ヲ以テ査定スヘシ

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス（此底徑ヲ求ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス）

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四（乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分位ニ止メ尺位ヲ一位トス以下準之）ヲ乘シ其得ル石數ヲ容器帳簿記載ノ石數ヨリ減シ現在ノ石數ヲ得ル

入實胴徑ヨリ以下ニ在ルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑ト假定ス（此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在深サヲ乘シ二倍シ全深ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス）

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及ヒ〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第十條　醬油製造人廢業シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第十一條　改名代替リ若クハ鑑札ヲ失却毀損シ又ハ住所製造場ヲ移轉シタルトキハ左ノ期日内ニ鑑札ノ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

一代替書替ハ　六十日間

一其他ノ書替再渡ハ　十日間

第十二條　製造場ヲ他府縣ヘ移轉セントスルモノハ免許鑑札ヲ添ヘ管廳ニ申出添書ヲ受ケ二十日以内之ヲ移轉地ノ管廳ニ差出シ鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

第十三條　稅則第六條第二項ノ場合ニ於テ査定濟ニ係ル造石稅ハ稅則第四條ノ納期ニ至リ之ヲ納ムルコトヲ得

第十四條　稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請フ者ハ其實況及廢業石數等ヲ詳說シ所管租稅檢査員派出所ニ申出ヘシ前項ノ場合ニ於テハ當該官吏二名以上現場ニ臨檢シ事實相違ナシト視認スルトキハ該造石稅免除ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條　造石數査定未濟ノ醬油漏溢其他ノ事故ニ依リ減量若クハ廢棄シタルトキハ直ニ所管租稅檢査員派出所ニ屆出ヘシ

第十六條　醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳

醬油麹製造帳
醬油仕込帳
醬油賣揚帳

第十七條　稅則及ヒ此細則ニ掲クル帳簿ハ附込濟翌年ヨリ三箇年間保存スヘシ

第十八條　稅則第十三條ニ依リ外國輸出醬油ノ檢査ヲ受ケントスル者ハ其製造地名名稱、石數、箇數、輸入地名、積込船名等ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ請ヒ檢査濟證明書ヲ受クヘシ

第十九條　造石稅ノ下戻ヲ請フニハ外國ニ輸入セシ證憑書類ニ當初輸出ノ際受ケタル所ノ證明書ヲ添ヘ稅關ニ申出ヘシ

第二十條　輸出醬油造石稅下戻ノ歩合ハ其製造セシ府縣管內ニ於テ前一箇年中諸味一石ヨリ製成シタル平均歩合ニ據リ其石數ヲ算定スルモノトス

第二十一條　稅則第十三條但書ノ場合ニ於テハ其製造地名、石數、箇數及當初下戻ヲ受ケタル年月日出港名ヲ記シタル書面ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十二條　稅則及此細則ニ於テ石數ノ合位稅金ノ厘位ニ滿タサルモノハ切捨トス

第二十三條　稅則第二十九條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二十四條　第一條但書ノ許可ヲ受ケサル者及第八條第一項第十五條ニ違犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條第四條第五條第六條第七條第十條第十一條第十二條第十六條第十七條ニ違犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　此細則ニ關スル帳簿記載方其他書式等ノ手續ハ府縣知事之ヲ定ム

賣藥規則

明治十年一月二十日布告第七號

第一章

第一條　此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥溶劑散藥煎藥等ヲ調製シ功能書ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ

十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正

第二條　此賣藥營業者ハ藥味分量用法服量効能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

十一年第二十七號布告ヲ以テ(管轄廳)ノ下八字ヲ削ル

但免許ヲ受ケタル者二箇所以上ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク可シ

十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第三條　管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハラス取扱上失誤ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サヽルヘシ（十一年第二十七號布告ヲ以テ內務省ヲ（管轄廳）ト改メ（毒藥）ノ下（劇藥）ノ二字ヲ加フ）

第四條　（第八條ニ記シタル期限中）藥味分量用法服量能書ヲ改正セントスル者其由ヲ屆出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ

第五條　賣藥ヲ請賣セントスシ其營業者ノ許諾ヲ得タルモノハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ營業者所持ノ免許鑑札寫及營業者ト取結ヒタル約定書トヲ添ヘ其管轄廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ク可シ（十九號布告ヲ以テ全條改正シ十一年第廿七號布告ヲ以テ（鑑札ヲ受）ノ下十三字ヲ創リ（ク）ノ一字ヲ加フ）

第六條　賣藥營業者及ヒ請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲ク可シ

第七條　賣藥營業者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サントスルトキハ其由ヲ管轄廳ヘ屆出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持ス可シ

第八條　營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受ク可シ

十九年十一月二十五日勅令第七十二號ヲ以テ(營業免許期限)ヲ廢ス

第九條　(第八條ニ記シタル期限中)第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スルトキハ新鑑札記載ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條　免許(期限)內ト雖モ其製藥第三條ニ掲クル處ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノフアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルフアルヘシ(十一年第二十七號布告ヲ以テ(有害)ヲ(有害)ニ改ム)

第十一條　營業者廢業スルカ又ハ禁止セラルヽ時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條　諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳ヘ屆出再ヒ之ヲ願受ク可シ

第十三條　免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ雙方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名前書換ヲ請フ可シ

第十四條　賣藥營業者及ヒ請賣書免許期限中其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記シ管轄廳ヘ鑑札名前書換ヲ請フ可シ(十年第八十九號布告ヲ以テ全條改正)

第十五條　賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタルトキハ營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納ス可シ

第二章

第十六條　賣藥營業者ハ左ノ通稅金幷鑑札料ヲ上納ス可シ

十四年第廿六號布告ヲ以テ（賣藥營業者）ノ下（及ヒ請賣者）ノ五字ヲ削リ（右鑑札料）ノ次（賣藥請賣鑑札料）及ヒ（賣藥行商鑑札料）ノ二項ヲ削ル

賣藥營業稅　藥劑一方ニ付一ケ年　金貳圓

右鑑札料　藥劑一方ニ付一枚　金貳十錢

但第二條但書ニ因リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其箇所毎ニ本文ノ稅金幷鑑札料ヲ納ム可シ

十五年第五十二號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

第十七條　水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受ル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ム可シ

第十八條　稅金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ鑑札料ハ其都度幷ニ管轄廳ニ上納ス可シ

第十九條　稅金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七日以後ハ半年分廢業ノ者ハ七日以後ハ前年分六月以前ハ半年分ヲ納ム可シ

但第十條ノ有害品ナルヲ更ニ發見セシ時ニ限リ日割ヲ以テ稅金ヲ納メシム可シ

十一年第二十七號布告ヲ以テ（有害）ヲ（有害）ニ改ム

第三章

第二十條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之ヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自ラ行商シ又ハ行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ

付五圓ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十一條　無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過キタル鑑札ヲ以テ請賣スル者及ヒ無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十二條　免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世人ヲ衒惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ沒入シ藥劑一方ニ付十圓以上二十五圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十三條　無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ

請賣者ニ藥劑調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付二十五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ（十四年第廿六號布告ヲ以テ（醫業スル者）ノ下卅八字ヲ追加ス）

第二十四條　諸鑑札ヲ僞造シ又ハ他人賣藥ヲ贋造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付五十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十五條　私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及ヒ其賣得金ヲ沒入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ

第二十六條　以上ノ犯則者ヲ見屆ケ訴出ル者アル時ハ事實

取紙ノ上相違ナキニ於テ其賞トシテ其罰金ノ半高ヲ與フ可シ

賣藥印紙稅則　明治十五年十月二十七日布告第五十一號

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合	印稅
一　定價壹錢迄	壹厘
一　仝　貳錢迄	仝　貳厘
一　仝　三錢迄	仝　三厘
一　仝　五錢迄	仝　五厘
一　仝　拾錢迄	仝　壹錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色	
貳厘	青色	
三厘	黃色	
五厘	茶褐色	
壹錢	赭色	
貳錢	綠色	
三錢	濃青色	
四錢	橙黃色	
五錢	紫色	

拾錢	深紅色	

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ

之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

印紙貼用雛形圖面略ス

藥品營業並藥品取扱規則　明治廿二年三月十五日　法律第十號

第一章　藥劑師

第一條　藥劑師トハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

藥劑師ハ藥品ノ製造及販賣ヲ爲スコトヲ得

第二條　藥劑師ハ其學術試驗ヲ受ケ年齡滿二十年以上ニシテ內務大臣ヨリ藥劑師免狀ヲ得タル者ニ限ル

第三條　藥劑師免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シ內務省ニ願出ヘシ

第四條　藥劑師免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金三圓

ヲ納ムヘシ

第五條　藥劑師免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ內務省ノ藥劑師名簿ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第六條　藥劑師免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ヲ變換スル等免狀面ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シ免狀書換ヲ內務省ニ願出ヘシ

第七條　書換ノ免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手數料金壹圓ヲ納ムヘシ

第八條　藥劑師廢業又ハ死亡シタルトキハ十日以內ニ地方廳ニ屆出ヘシ

第九條　藥劑師ニ非ラサレハ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス

第十條　藥劑師藥局ヲ開設シ又ハ閉鎖シタルトキハ十日以內ニ地方廳ヘ屆出ヘシ

第十一條　藥劑師一人ニシテ二箇所以上ノ藥局ヲ開設スルコトヲ得ス但支局ヲ設クルトキハ別ニ藥劑師ヲ置キ之ヲ管理セシムヘシ

第十二條　藥局ニハ日本藥局方第一表ノ藥品ヲ備フヘシ

第十三條　藥局ニ備付ノ秤量器ハ最モ精確ナルヲ要シ權衡ハ少クモ「サンチグラム」ヲ定量シ得ルモノヲ備フヘシ

第十四條　藥劑師ハ患者ノ氏名、年齡、藥名、分量、用法、用

量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アル時ハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非ザレハ調劑スルコトヲ得ス

藥劑師ハ調劑錄ヲ備ヘ處方箋ヲ謄寫シ置クヘシ

第十五條　處方箋ヲ受ケタルトキハ晝夜ヲ問ハス何時ニテモ調劑スヘキモノトス正當ノ事故ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十六條　處方箋中ノ藥品ニ缺乏アルトキハ其醫師ニ通知シテ指揮ヲ乞フヘシ藥劑師隨意ニ之ヲ省略シ又ハ他藥ヲ

代用スルコトヲ得ス

第十七條　毒藥劇藥ノ處方箋ハ藥劑師檢印シテ處方箋ノ日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　毒藥劇藥ハ一回使用セシ處方箋ニ據リ再ヒ調劑スルヿヲ得ス但特ニ醫師ノ通知アルモノハ此限ニアラス

第十九條　患者ニ與フル藥劑ノ容器又ハ包紙ニハ處方箋ニ據リ內外用ノ別、用法、用量、年月日、患者ノ氏名、藥局ノ地名及藥劑師ノ氏名ヲ記スヘシ

第二章　藥種商

第二十條　藥種商トハ藥品ノ販賣ヲ爲ス者ヲ云フ

第二十一條　藥種商ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十二條　毒藥劇藥ハ衛生試驗所又ハ藥劑師製藥者ニ於テ封緘シタル容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第三章　製藥者

第二十三條　製藥者トハ單ニ藥品ヲ製造シ自製ノ藥品ヲ販賣スル者ヲ云フ

第二十四條　製藥者ハ地方廳ノ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二十五條　毒藥劇藥ハ適當ノ容器ニ納メ之ヲ封緘スヘシ其容器ヲ開キテ零賣スルコトヲ得ス

第四章　藥品取扱

第二十六條　日本藥局方ニ記載スル所ノ藥品ハ其性狀、品質、該局方ノ所定ニ適合スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十七條　日本藥局方ニ記載セル藥品ハ其據ル所ノ外國藥局方名ヲ記スヘシ其性狀、品質該局方ノ所定ニ適合シタルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルヿヲ得ス

何レノ藥局ニモ記載セサル新規ノ藥品ハ衛生試驗所ノ檢査ヲ經其試驗成蹟ヲ記スルモノニ非サレハ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

第二十八條　藥局方中特ニ貯藏法ヲ示シタルモノハ其所定

ニ從フヘシ

第二十九條　毒藥劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

第三十條　毒藥劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス

前項ノ證書ハ其日付ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

第三十一條　毒藥劇藥ハ前條ニ記載シタル證書アルモ幼稚ノ者其他不安心ト認ムル者ニハ交付スヘカラス

第三十二條　毒藥劇藥ハ藥品ノ容器又ハ包紙ニ其名稱及販賣授與者ノ住所氏名ヲ記シ毒藥ハ毒字劇藥ハ劇字ヲ付記スヘシ

第三十三條　藥劑師ニ於テ醫師ノ處方箋ニ據リ患者ニ與フル藥劑ハ第三十條及第三十二條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三十四條　藥劑師藥種商製藥者ノ間ニ於テハ第三十條及第三十二條ニ記載シタル手續ヲ要セス其藥劑師藥種商製藥者タルノ證明書ヲ以テ毒藥劇藥ヲ賣買スルコトヲ得

第三十五條　毒藥劇藥ノ品目ハ內務省令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ假名又ハ漢字ヲ以テ

其藥名ヲ記スヘシ但羅甸語又ハ他ノ外國語ト併記スルハ妨ケナシ

第三十七條　藥品ノ容器又ハ包紙ニハ製造者ノ住所氏名ヲ記スヘシ其外國製ニ係ルモノハ引取人ノ住所氏名ヲ記スヘシ但藥品製造會社ニ在テハ其所在地名及會社名ヲ記スルモ妨ケナシ

第三十八條　內務大臣ハ監視員ヲシテ藥局及藥品ヲ販賣又ハ製造スル場所ヲ巡視セシムルコトアルヘシ監視員ハ巡視ノ際其證票ヲ携帶スヘシ

第五章　罰則

第三十九條　官許ヲ得スシテ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者又ハ第十六條第十八條第二十二條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第一項ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第十一條第十四條第一項第十七條第十九條第二十九條第三十條第二項第三十一條第三十二條ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第六條第八條第十條第十二條第十三條第十四條第二項第十五條第二十一條第二十四條第二十八條第三十六條第三十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五

錢以下ノ科料ニ處ス

第四十二條　內務大臣ハ此規則實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スヘシ但藥種商製藥者取締ニ係ル細則ハ北海道長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

附則

第四十三條　醫師ハ自ヲ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

醫師ハ第三十四條ニ從ヒ醫師タルノ證明書ヲ以テ藥劑師藥種商製藥者ヨリ毒藥劇藥ヲ買取ルコトヲ得

第四十四條　此規則施行以前ニ於テ內務省ヨリ藥舖開業免狀ヲ受ケタル者ハ藥劑師タルノ効ヲ有ス

第四十五條　阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年第二十一號布告ニ據ル

第四十六條　醫科大學藥學科ノ卒業證書ヲ有シ年齡滿二十年以上ノ者ハ其證書ヲ以テ此規則第三條ニ據リ藥劑師免狀ノ下付ヲ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ內務大臣ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四十七條　此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

第四十八條　明治十三年一月第一號布告藥品取扱規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

證券印稅規則

明治十七年五月第十一號布告

第一條　凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類ト爲シ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ掲クル處ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用ス可シ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フヲ得

一當座預金引出小切手　印稅　五厘

一委任狀　同　五厘

一金高記載ナキ約定證文　印税　壹錢
一遺金物證文　同　壹錢
一跡式讓證文　同　壹錢
一讓與證文　同　壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金證文　同　壹錢
一耕地小作證文　同　壹錢
一雇人請合狀　同　壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ證文　同　壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用證文　同　壹錢
一地所家屋預リ證文　同　壹錢
一諸物品切手　同　壹錢
一借地借家證文　同　壹錢
一賣買仕切書　同　壹錢
一保險證文　同　壹錢
一諸會社株券　同　壹錢
一送金手形　同　壹錢
一金錢諸物品通帳　同　壹錢
一金錢諸物品判取帳　同　貳拾錢
一結社約定書　同　壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効

力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用ス可シ

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

一營業ニ關スル送狀　印稅　壹錢

一營業ニ關スル受取書　同　壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第二類

左ニ掲クル處ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但爲換手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フ可シ

一金錢借用證文

一地所家屋賣買證文

一金高記載アル諸物品預リ證文

一金高記載アル諸物品借用證文

一諸物品賣買證文

一金錢定規預リ證文

一金高記載アル諸般ノ契約證書　印稅　壹錢

金高壹圓以上貳拾圓未滿

金高貳拾圓以上五拾圓未滿　印稅　貳錢
金高五拾圓以上百圓未滿　同　四錢
金高百圓以上百五拾圓未滿　同　六錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿　同　八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿　同　拾壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同　拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同　貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同　貳拾六錢
金高八百圓以上千圓未滿　同　三拾貳錢
金高千百圓以上千四百圓未滿　同　三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同　四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿　同　五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿　同　六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿　同　七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同　八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿　同　九拾錢
金高四千圓以上　同　壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ從ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

金高百圓未滿　印稅　四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ル可シ

一金高當座預リ證文　印稅　壹錢

一質物預リ書小札　同　貳錢

金高壹圓以上貳拾圓未滿

金高貳拾圓以上

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル處ノ印紙ヲ貼用ス可シ

金高百圓未滿　印稅　貳錢

金高百圓以上　同　四錢

一爲換手形

一荷爲換手形　印稅　壹錢

一約束手形　同　貳錢

金高五拾圓未滿　同　四錢

金高五拾圓以上百圓未滿　同　八錢

金高百圓以上貳百圓未滿　同　拾五錢

金高貳百圓以上五百圓未滿　同　貳拾五錢

金高五百圓以上千圓未滿　同　五拾錢

金高千圓以上貳千圓未滿

金高貳千圓以上

第三條　前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノ

ハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條　印紙ヲ貼用ス可キ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但諸罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條　印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス可シ

第六條　印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用ス可キ帳簿仕切書送狀ハ主任官之ヲ檢査スルコトアル可シ

第九條　左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス

一　官廳ヨリ差出ス證書帳簿

一　官吏準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一　國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預金ニ對スル抵當證書

一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿

一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書

一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ヘ差出ス請取證書

一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載ス可シ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ

記載ス可シ

第十一條　證書帖簿ニ稅率ニ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其冒該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受ク可シ

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尙之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ尽キザルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加

スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ增加シタル紙數ヲ記載ス可シ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十六條　取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後

證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルヿヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用ス可キ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス此證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタル者ハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當ス

ル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及第十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十二條及第十四條ヲ犯シタルモノハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪

及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

民事訴訟用印紙規則

明治十七年二月二十三日布告第五號

第一條　凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條　訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額若クハ價額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙ヲ貼用ス可シ

金額價額五圓マテ	貳拾錢	同拾圓マテ	三拾錢		
仝貳拾圓マテ	六拾錢	同五拾圓マテ	壹圓五拾錢		
同七拾五圓マテ	貳圓貳拾錢	同百圓マテ	三圓		
同貳百五拾圓マテ	六圓五拾錢	同五百圓マテ	拾圓		
同七百五拾圓マテ	拾三圓	同千圓マテ	拾五圓		

同貳千五百圓マテ貳拾圓　同五千圓マテ貳拾五圓
同五千圓以上千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ
控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ加貼スル可シ

第三條　人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用スル可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ
但人事ニ於テ極貧ノ者ニシテ戸長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

第四條　左ノ書類ニハ正本壹通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スル可シ
答辨書證據物寫辨駁書辨論書上申書陳述書等
證人鑑定人評價人引合人等ノ呼出ヲ請求スル願書
審判ノ延期ヲ請求スル願書

第五條　左ノ書類ニハ正本壹通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用スル可シ
官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書
財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書
執行命令書ヲ請求スル願書
身代限ノ處分ヲ請求スル願書

第六條　裁判言渡書ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ

其謄本壹枚五錢其他ノ謄本ヲ下付スル時差出ス受取書ニハ其謄本壹枚三錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

但裁判言渡書ノ謄本ハ壹枚十二行一行十二字詰其他ノ謄本ハ壹枚二十行一行十八字詰トス

第七條　勸解ニ於テハ一件毎ニ勸解表ニ署名ノ時貳拾錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第八條　此規則ニ依リ貼用シタル印紙ノ代價ハ曲者ヨリ直者ニ辨償スヘキモノトス

第九條　印紙ノ種類定價及ヒ貼用方ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌處ニ於テ發賣セ

ンム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第十一條　官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十二條　前條ノ規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

民事訴訟用印紙種類定價及貼用方ヲ定ム　明治十七年二月廿三日太政官布達第四號

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用印紙規則制定候ニ付印紙ノ種類定價及ヒ貼用方左ノ通之ヲ定ム

淡黑色印紙　一枚三錢　黑色印紙　同　五錢
赭色印紙　同　拾錢　茶褐色印紙　同　五拾錢
黃色印紙　同　壹圓　青色印紙　同　五圓
橙黃色印紙　同　拾圓　綠色印紙　同　拾五圓
矯栗色印紙　同　貳拾圓

印紙ハ訴狀其他書類ノ正本ニ貼用シ貼用者ノ印章ヲ以テ消印ス可シ

右布達候事

商標條例　明治二十一年十二月十八日勅令第八十六號

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ依リ其商標ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條　左ニ掲クル商標ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　商品普通ノ名稱若クハ內外國旗章ノミヲ以テ要部ト

爲スモノ

三　他人ノ登錄商標又ハ登錄出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條　商標ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　商標ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其商標ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ商標原簿ニ登

錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シタル商品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノ

トス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十一條　商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條　登錄商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條　登錄ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フモノトス

一　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ商標登錄ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セサルトキ

二　登錄商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ

三　登錄商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ

四　登錄商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

五　登錄商標主磨滅若クハ毀損シタル商標ヲ使用シタルトキ

第十四條　登錄商標主其專用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登錄ヲ出願スルコトヲ得

第十五條　登錄商標主其登錄證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得

但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　商標ノ登錄ヲ出願スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金壹圓

二　登錄商標ノ賣與讓與又ハ其有契約ノ登錄ヲ請求スルトキ

一商標ニ付商品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ　金壹圓

證書一枚毎ニ

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ　金貳圓

一商標ニ付商品一類毎ニ

五　審判ヲ請求スルトキ　金七圓

一事件毎ニ

第十八條　商標登錄證又ハ其改訂登錄證又ハ其續用登錄證ヲ受クル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登錄料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條　特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條　登錄商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ之ヲ同一又ハ

類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐欺ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知リ其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條　前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條　第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

意匠條例

明治二十一年十二月十八日
勅令第八十五號

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル意匠ハ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　風俗ヲ害スヘキモノ

二　登錄出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條　意匠ノ登錄ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書

及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其意匠ヲ審査セシメ登錄ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ意匠原簿ニ登錄シ其登錄證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　登錄證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　意匠專用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ

出願人ノ指定シタル物品ニ限ルモノトス

第八條　二人以上同一又ハ類似意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登錄ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登錄セサルモノトス出願人協議ノ上連名ニテ其登錄ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者アリテ出願人一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條　意匠ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登錄出願ノ權利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契

約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラス

第十一條　登錄ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登錄ヲ無効トス

第十二條　意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條　意匠專用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登錄ヲ出願シ又ハ意匠專用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠專用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第十五條　登錄意匠主其登錄證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條　登錄意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ登錄ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ登錄證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第十七條　登錄意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務

大臣ノ定メタル登錄標記ヲ爲スヘシ

第十八條　意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　意匠ノ登錄ヲ出願スルトキ
　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金五拾錢

二　登錄意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ
　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金三圓

三　登錄證ノ再下付ヲ出願スルトキ
　證書一枚毎ニ　金壹圓

四　登錄證ノ改訂ヲ出願スルトキ
　一意匠ニ付物品一類毎ニ　金貳圓

五　審判ヲ請求スルトキ
　一事件毎ニ　金七圓

第十九條　意匠登錄證又ハ其改訂登錄證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登錄料ヲ納ムヘシ

一　三年ノ專用　金壹圓
二　五年ノ專用　金貳圓
三　七年ノ專用　金四圓

四　十年ノ專用　　金八圓

第二十條　登錄意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第二十一條　登錄意匠ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條　他人ノ登錄意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐僞ノ所爲ヲ以テ登錄證ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條　前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物

件ヲ沒收シテ登錄意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十五條　第二十三條第一項第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條　登錄意匠主第十七條ノ登錄標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

特許條例

明治二十一年十二月十八日
勅令第八十四號

第一條　新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品、及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ヲシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條　左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一　飲食物嗜好物

二　醫藥並其調合法

三　特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試驗ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條　特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條　特許ヲ出願スル者ナルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條　特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條　公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條　他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケ

ソト欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條　特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條　特許ヲ受ケタル發明ト雖モ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一　新規又ハ有益ナラサリシコトヲ發見セラレタルモノ

二　第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三　發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

四　發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコトヲ發見セラレタルモノ

第十一條　特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出

願人ニ送付スヘシ

第十二條　前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第十三條　特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ通知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條　前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ユルコトヲ得ス

第十五條　第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條　特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發明シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ

審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條　特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

第二十條　第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ治安裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條　第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條　特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登錄ヲ受クヘシ登錄ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第二十三條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條　特許ハ左ノ場合ニ於テ其効ヲ失フモノトス

一　特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二　特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三　特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條　特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條　特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條　第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條　特許證主ハ其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條　特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　特許ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ　金五圓

二　特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登錄ヲ請求スルトキ　一發明毎ニ　金三圓

三　特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ　證書一枚毎ニ　金壹圓

四　特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ　一發明毎ニ　金五圓　一事件毎ニ　金七圓

五　審判ヲ請求スルトキ

第三十一條　特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

一　五年ノ特許　金拾圓

二　十年ノ特許　金拾五圓

三　十五年ノ特許　金貳拾圓

第三十二條　特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縱覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代

價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第三十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手數料ヲ納ムヘシ

第三十四條　特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條　前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條　他人ノ特許品ヲ僞造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ僞造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者

又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條　前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第三十八條　詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特

許ヲ受ケサル物品ニ特許標札若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　第三十六條ノ犯罪ハ被害者ハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差出ムルコトヲ得

第四十條　特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ

得ス

第四十一條　被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辯セントス欲スルトキハ其旨裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以內ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條　此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條　此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條　明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條

例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ効アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

爲替手形約束手形條例

明治十五年十二月十一日 第五十七號布告

第一章　爲替手形

第一節　爲替手形ノ性質及法式

第一條　爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ全額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條　爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印スヲ可シ

一　金額

二　振出ノ年月日及ヒ場所

三　支拂ノ期限及ヒ場所
四　支拂人ノ氏名
五　受取人ノ氏名
六　受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ者

第三條　爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形二通又ハ三通ヲ振出スヿヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ內一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヿヲ記載ス可シ

第四條　爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節　支拂期限

第五條　爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一　一覽拂
二　定期拂
三　一覽後定期拂

第六條　一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ支拂フ可キ者トス

第七條　定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條　一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第九條　一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示スヘシ

第十條　定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節　爲替資金

第十一條　振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條　振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替資金ニ供用スルヿヲ得

第四節　裏書

第十三條　爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヿヲ得

第十四條　裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印スヘシ

第十五條　裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條　手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヿヲ得

第五節　保證

第十七條　振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保證セシムルヿヲ得

保證人ハ其保證ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載スル可シ

第十八條　振出人裏書人ノ保證人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本人ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十九條　保證人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節　引受

第二十條　定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルヿヲ得

第二十一條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印スル可シ

第二十二條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖ヒ其取消ヲ爲スヿヲ得ス

第二十三條　支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケサル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條　所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當セル抵當又ハ保證

人ヲ以テ保證ヲ立テシムルヿヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スヿヲ得

第二十五條　振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ルヽ者トス

第七節　支拂

第二十六條　手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂フ可シ

第二十七條　手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス

可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條　手形所持人支拂金ヲ請取ル時ハ手形ニ領收ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交附ス可シ

第二十九條　一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ニ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲ス可シ

第三十條　支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サヽル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條　支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書

留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及各裏書人ニ通知ス可シ

第八節　拒ミ證書

第三十二條　支拂人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條　支拂人拒ミ證書ヲ作ルヿヲ肯セス又ハ其住所分明ナラス又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用スヘシ

第三十四條　支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルヿヲ得

第九節　償還ノ要求

第三十五條　手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以內ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書幷ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヿヲ得

第三十六條　第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以內ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其

利子ヲ要求スルヿヲ得

第三十七條　振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヿヲ得ス

第三十八條　要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘタル計算書ト引換ヘニ非レハ償還ヲ爲スニ及ハス

第三十九條　第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求期限ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支

拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルヿヲ得

第十節　紛失

第四十條　手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條　手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ證シ代手形

ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルヿヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヿヲ得

第四十二條　手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支拂人ニ對シ眞正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルヿヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保證ヲ立テシムルヿヲ得

第二章　約束手形

第四十三條　約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ旨ヲ約束シタル證

券ヲ謂フ

第四十四條　約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條　爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル保目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章　通則

第四十六條　第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限

外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第四十七條　第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セサル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルヿヲ得ス

質屋取締條例

明治十七年三月二十五日布告第九號

第一條　質屋營業ヲ爲ス者ハ管轄廳（東京府ハ警視廳）ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條　質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物、貸金、質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ樣記載スヘシ

但證人ヲ要スルトキハ質入主及證人ノ實印ヲ押捺セシメ置クヘシ

第四條　身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但身

元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

第五條　十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及雇人（雇主ノ家ニアル者）ヨリ質物ヲ取ルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者證人タルトキハ此限ニアラス

官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其質入シ得ヘキコトヲ證明スル證人二名以上アルニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フコト無ク質物ヲ取戻サルヽコトアルヘシ

第六條　盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百

一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第七條　贓物ノ疑アル品物又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條　流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條　流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ樣流質物拂帳ニ記載スヘシ

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品

觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條　品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取リ又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出スヘシ

第十二條　質物臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキ直ニ所轄警察署ニ屆出ヘシ

第十三條　警察官ハ何時タリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　此條例ニ違背シ又ハ詐僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條　營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條　此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府縣知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ屆出ヘシ

古物商取締條例 明治十六年十二月廿八日 第五十號布告

第一條　古物商トハ古道具、古本、古書畫、古着、古銅鐵潰金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ

我物屋小間物屋鼈甲屋時計屋飾屋箔打屋煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣買交換スル者及ヒ刀劍商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條　古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條　古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ樣簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキ之ヲ

記載スヘシ

第四條　身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡査ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條　十五年未滿ノ者白痴瘋癲者及ヒ雇人（雇主ノ家ニアル者）ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其證人タルトキハ此限ニアラス

官廳町村學校病院社寺會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ證明スル證人貳人以上アルニ非サレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニヨリ無代價ニテ物品ヲ取戻サルヽコトアルヘシ

第六條　古物商ハ營業者タルト否トヲ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルヿヲ得ス

第八條　刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者

及ヒ盗罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店
及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スコトヲ得ス

第九條　古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルトキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

警察署ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ屆人之ヲ擔當スヘシ

第十條　贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條　品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ

交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマヽ所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ若シ屆出テスシテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條　物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及ヒ品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直チニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ

第十三條　警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ

之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條　第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐僞ノ屆出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　第六條第十一條第十四條及ヒ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル古物商ハ管轄廳（東京府ハニ警視廳）ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條　特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一　物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齡及ヒ物品ノ形狀（徽章番號編捆摸樣損所ノ類ヲ云フ）價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二　日出前日沒後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三　營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四　物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齡ヲ知リ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五　毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ

其檢査ヲ受クヘシ

六　住所ヲ移轉シ又ハ旅行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受ク可シ

第十七條　前條ニ違背シタルモノハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　特別取締ニ付セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラルヽアルヘシ

第十九條　古物商一年內ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條　此條例ヲ犯シ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハズ警察署ニ於テ之ヲ追徵シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條　商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條　此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事（東京府ヲ除ク）縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ屆出ツヘシ

集會條例

明治十三年四月五日
布告第十二號

第一條　政治ニ關スル事故ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄ノ警察署ニ屆出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社（何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政事ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲ヌ結合スルモノヲ併稱ス）スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ屆出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同樣タルヘシ此屆出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ

社中ノ事ハ何事タリトモ之ヲ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ（十五年六月第二十七號布告ヲ以テ全條改正）

第三條　講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日前ニ警察署ニ屆出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ屆出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ屆出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ（同上）

第五條　警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場ニ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場ヲ監視セシムルコトアルヘシ

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルトキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ（同上本項追加）

第六條　派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ屆書ニ掲ケサル事項ニ亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命シ之ニ從ハサ

ルトキハ全會ヲ解散セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルトキ地方長官（東京ハ警視長官）ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一箇年以內管轄內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解社セシムルコトヲ得內務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一箇年以內全國內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第七條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ現役及召集中ニ係ル豫備後備ノ陸海軍々人警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加入スルコトヲ得ズ（廿二年十二月十四日法律第三十一號ヲ以テ本條中改正）

第八條　政治ニ關スル事故ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス（十五年六月第廿七號ヲ以テ改正）

第九條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ノ集會ヲ催スコトヲ得ス

第十條　第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講談

論議者ハ各二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規定ヲ犯シタル者モ又本條ニ依ル

第十一條　第二條第一項ノ規定ニ背キテ屆出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ屆出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ僞答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス同上

第十二條　第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ僞答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス同上

第十三條　派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命シタル後尙ホ退散セサル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條　第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及社長幹事ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金若クハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ二圓以上二

十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條　學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス同上

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條　前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス同上　以下三條追加

第十八條　凡ソ結社若クハ集會スル者內務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルコトヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條　成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

官吏公衆ニ對シ政治上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルヲ得（廿二年一月廿四日内閣訓令）

凡官吏タル者ハ自今其職務外ト雖モ公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ叙述スルコトヲ得但各長官ノ監督ニ從屬スヘシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限ニアラス

保安條例（明治二十年十二月十五日勅令第六十號）

第一條

凡ソ秘密ノ結社又ハ集會ハ之ヲ禁ス犯ス者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其首魁及教唆者ハ二等ヲ加フ内務大臣ハ前項ノ秘密結社又ハ集會又ハ集會條例第八條ニ載スル結社集會ノ聯結通信ヲ阻遏スル爲メニ必要ナル豫防處分ヲ施スコトヲ得其處分ニ對シ其命令ニ違犯スル者罰前項ニ同シ

第二條

屋外ノ集會又ハ群集ハ豫メ許可ヲ經タルト否トヲ問ハス警

察官ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違フ者首魁教唆者及情ヲ知リテ參會シ勢ヲ助ケタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

集會者ニ兵器ヲ携帶セシメタル者又ハ各自ニ携帶シタル者ハ各本刑ニ二等ヲ加フ

第三條

內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ文書又ハ圖畫ヲ印刷又ハ板刻シタル者ハ刑法又ハ出版條例ニ依リ處分スルノ外仍ホ其犯罪ノ用ニ供シタル一切ノ器械ヲ沒收スヘシ

印刷者ハ其情ヲ知ラサルノ故ヲ以テ前項ノ處分ヲ免ルヽコトヲ得ス

第四條

皇居又ハ行在所ヲ距ル三里以內ノ地ニ住居又ハ寄宿スル者ニシテ內亂ヲ陰謀シ又ハ教唆シ又ハ治安ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキハ警視總監又ハ地方長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經期日又ハ時間ヲ限リ退去ヲ命シ三年以內同一ノ距離內ニ出入寄宿又ハ住居ヲ禁スルコトヲ得ス

退去ノ命ヲ受ケテ期日又ハ時間内ニ退去セサル者又ハ退去シタルノ後更ニ禁ヲ犯ス者ハ一年以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ仍ホ五年以下ノ監視ニ付ス

監視ハ本籍ノ地ニ於テ之ヲ施行ス

第五條

人心ノ動乱ニ由リ又ハ内乱ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲ス者アルニ由リ治安ヲ妨害スルノ虞アル地方ニ對シ内閣ハ臨時必要ナリト認ムル場合ニ於テ其一地方ニ限リ期限ヲ定メ左ノ各項ノ全部又ハ一部ヲ命令スルコトヲ得

一凡ソ公衆ノ集會ハ屋内屋外ヲ問ハス及何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス豫メ警察官ノ許可ヲ經サルモノハ總テ之ヲ禁スル事

二新聞紙及其他ノ印刷物ハ豫メ警察官ノ檢閲ヲ經スシテ發行スルヲ禁スル事

三特別ノ理由ニ因リ官廳ノ許可ヲ得タル者ヲ除ク外銃器短銃火藥刀劍仕込杖ノ類總テ携帶運搬販賣ヲ禁スル事

四旅人出入ヲ檢査シ旅券ノ制ヲ設クル事

第六條

前條ノ命令ニ對スル違犯者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其刑法又ハ其他特別ノ

法律ヲ併セ犯シタルノ場合ニ於テハ各本法ニ照シ重キニ從ヒ處斷ス

第七條

本條令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

出版條例 明治二十年十二月二十八日 勅令第七十六號

第一條 凡ソ機械舍密其他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖畫ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若クハ圖畫ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

第二條 新聞紙又ハ時々ニ發行スル雜誌ヲ除クノ外文書圖畫ノ出版ハ總テ此條例ニ依ル可シ但雜誌ニシテ專ラ學術技藝ニ關スル事項ヲ記載スルモノハ內務大臣ノ許可ヲ得テ此條例ニ依ルコトヲ得

第三條　文書圖書ヲ出版スルトキハ發行ノ日ヨリ到達シ得ヘキ日數ヲ除キ十日前製本三部ヲ添ヘ內務省ヘ屆出可シ

第四條　官廳ニ於テ文書圖書ヲ出版スルトキハ其官廳ヨリ發行前製本三部ヲ內務省ニ送付ス可シ

第五條　出版屆ハ著作者又ハ其相續者及發行者連印ニテ之ヲ差出ス可シ但非賣品ハ著作者ノミニテ屆出ルコトヲ得

著作者又ハ其相續者ヲ知ルヘカラサルトキハ其由ヲ記シ發行者ヨリ差出ス可シ

學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ屆ハ其學校會社等ヲ代表スル者發行者ト連印シテ之

出ス可シ

第六條　文書圖書ノ發行者ハ文書圖書ノ販賣ヲ以テ營業トスル者ニ限ル但著作者又ハ其相續者ハ發行者ヲ兼ヌルコトヲ得

第七條　文書圖書ヲ印刷スル者ハ其發行ト否トヲ問ハス印刷ノ年月日及印刷者ノ氏名住所ヲ記載シ其發行ニ係ルモノハ發行者ノ氏名住所ヲ併セテ記載ス可シ

第八條　社則塾則引札諸藝ノ番付普通ノ書式アル諸種ノ用紙又ハ證書ノ類ハ第三條第六條ニ據ルヲ要セス

第九條　文書圖書ノ冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル者ハ其都度

第三條ノ手續ヲ爲スヲ可シ但雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ經テ其手續ヲ省略スルコトヲ得

第十條　一タヒ出版屆ヲ爲シタル文書圖畫ノ再版ハ出版屆ヲ要セスト雖モ若シ改正增減シ又ハ註解附錄繪圖等ヲ加ヘタルモノハ仍ホ第三條ニ依ル可シ

第十一條　演說若クハ講義ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲ストキハ演說者若クハ講義者ヲ以テ著作者トス

但演說者若クハ講義者ノ許諾ヲ經スシテ出版シタルモノニ關シテハ其演說者若クハ講義者ハ著作ノ責ニ任セス

他人ノ講義又ハ公然ナラサル演說ハ其講義者又ハ演說者ノ許諾ヲ經ルニ非レハ其筆記ヲ出版スルコトヲ得ス但本項ニ違フ者ハ版權條例ニ依リ其責ニ任セシム

第十二條　數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲スモノハ編纂者ヲ著作者ト見做ス可シ

前條第一項ノ但書及第二項ハ本條ニ適用ス可シ

第十三條　翻譯ハ翻譯者ヲ以テ著作者ト見做ス可シ但翻譯トハ漢文ヲ延譯スルモノヲモ包含ス

第十四條　學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫ハ其出版屆ヲナス者ヲ以テ著作者ト見做ス可シ

第十五條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ出版スルコトヲ得ス

第十六條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ內務大臣ニ於テ其發賣頒布ヲ禁シ其刻版及印本ヲ差押ユルコトヲ得

第十七條　外國ニ於テ印刷シタル文書圖畫ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ內務大臣ハ其文書圖畫ノ內國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其印本ヲ差押フルコトヲ得

第十八條　軍事ノ機密ニ關スル事項ヲ記載スル文書圖畫ヲ出版スルコトヲ得ス

第十九條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ出版スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑事ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ出版スルコトヲ得ス

第二十一條　第三條ノ屆出ヲ爲サスシテ文書圖畫ヲ出版シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　發行者自己ノ氏名住所又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ出版ノ年月日ヲ記載セサル文書圖畫ヲ發行シタルトキハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ其之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサルモノハ一日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條ヲ犯ス者罰前項ニ同シ

第二十三條　印刷者其氏名住所ヲ其印刷スル處ノ文書圖畫ニ記載セス若クハ記載スト雖モ實ヲ以テセサルモノハ罰前條ニ同シ

第二十四條　政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ文書ヲ出版シタルトキハ著作者發行者印刷者共犯ヲ以テ論シ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

圖畫ニシテ其目的前項ニ同キモノハ罰前項ニ同シ

第二十五條　猥褻ノ文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上六月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　文書圖畫ヲ寫眞ト爲シ因テ第十八條第二十四

條第二十五條ヲ犯ス者ハ各本條ニ依テ處分ス

第二十七條　本條例ニ依リ出版ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ出版シタルトキハ著作者發行者共犯ヲ以テ論シ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス」

其發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖畫ヲ發賣頒布スルトキハ發行者又ハ發賣頒布者罰前項ニ同シ

但其未タ發賣頒布セサル文書圖畫ハ之ヲ沒收ス

第二十八條　第二十四條第二十五條第二十七條ノ場合ニ於テ刻版及ヒ印本ハ檢察官ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得差押フル所ノ刻版及印本ハ裁判ノ確定ヲ待チ無罪ナレ

ハ本主ニ還付シ有罪ナレハ沒收ス

第二十九條　前條ノ差押ヲ爲ストキハ製本ノ體裁ニヨリ其差押フヘキ部分ハ他ノ部分ト分割シ得ルニ於テハ之ヲ分割スルコトアル可シ

第三十條　他人ノ講義演說ヲ筆記若クハ編纂シ又ハ他人ノ著作ヲ編纂シタル文書圖畫ヲ出版シ第二十四條第二十五條ヲ犯シタル場合ニ於テ講義者演說者若クハ著作者ニシテ其出版ヲ承諾シタルモノナルトキハ筆記者若クハ編纂者ト同シク其罪ヲ論ス

第三十一條　文書圖畫ヲ出版シ因テ誹毀ノ訴ヲ受クタル場

合ニ於テ其私行ニ渉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第三十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十三條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十四條　文書圖畫ヲ印刷スルトキハ直チニ發賣頒布セスト雖モ其目的發賣頒布ニ在ル者ハ總テ此條例ニ依ル

版權條例

明治二十年十二月廿八日
勅令第七十七號

第一條　凡ソ文書圖畫ヲ出版シテ其利益ヲ專有スルノ權ヲ版權ト云ヒ版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ其文書圖畫ヲ翻刻スルヲ僞版ト云フ

第二條　出版條例ニ依リ文書圖畫ヲ出版スル者ハ總テ此條例ニ依リ其版權ノ保護ヲ受ルコトヲ得

第三條　版權ノ保護ヲ受ントスル者ハ發行前製本六部ノ定價ヲ添ヘ版權登錄ヲ內務省ニ願出可シ

第四條　官廳ニ於テ文書圖畫ヲ出版シ版權ノ登錄ヲ得ントスルトキハ其由ヲ內務省ニ通知ス可シ

第五條　版權登錄ノ文書圖書ニハ其保護年限間ハ版權所有ノ四字ヲ記載ス可シ其記載セサル者ハ登錄ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內務省ニ於テハ版權登錄簿ヲ備ヘ置キ登錄ノ願出アル毎ニ之ヲ登錄シ登錄證書ヲ下付ス可シ

登錄ヲ經タル文書圖書ハ內務省ニ於テ時々之ヲ官報ニ掲示ス可シ

第七條　版權ハ著作者ニ屬シ著作者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

講義若クハ演說ヲ筆記シテ一部ノ書ト爲シタルモノハ版

權ハ講義者若クハ演說者ニ屬シ若シ筆記者ニ於テ講義者若クハ演說者ノ許諾ヲ經テ出版スルトキハ筆記者ニ屬シ筆記者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

翻譯書ノ版權ハ翻譯者ニ屬シ翻譯者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス

官廳學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖書ノ版權ハ其官廳學校等ニ屬スルモノトス

數人ノ著作若クハ數人ノ講義演說ヲ編纂シタル文書圖書ノ版權ハ編纂者ニ屬シ編纂者死亡後ニ在テハ其相續者ニ屬スルモノトス但編纂者ト原著作者講義者演說者又ハ其

相續者トノ關係ハ相互ノ約束ニ依ル

第八條　版權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスノ賣渡シ讓渡スヿヲ得

第九條　版權登錄證書ヲ毀損又ハ紛失シタルトキハ事由ヲ記シ其再度下付ヲ內務省ニ願出ルコトヲ得但手數料トシテ金五拾錢ヲ納ム可シ

第十條　版權保護ノ年限ハ著作者ノ終身ニ五年ヲ加ヘタルモノトス若シ版權登錄ノ月ヨリ死亡ノ月マテヲ計算シ之ニ五年ヲ加ヘ仍ホ三十五年ニ足ラサルトキハ版權登錄ノ月ヨリ三十五年トス

數人ノ合著ニ係ルモノ、版權年限ハ最終ニ死亡シタル者

ニ據リテ計算ス

官廳又ハ學校會社協會等ニ於テ著作ノ名義ヲ以テ出版スル文書圖畫並著作者死亡ノ後ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ版權登錄ノ月ヨリ計算シ三十五年トス

第十一條　冊號ヲ逐ヒ順次ニ出版スル文書圖畫ノ版權年限ハ各號毎ニ其出版ノ月ヨリ起算ス但其都度第三條ノ手續ヲ爲ス可シ

雜誌ノ類ニ在テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ第三條ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十二條　版權ノ保護ハ其文書圖畫ヲ改正增減シ又ハ註解

附錄繪圖等ヲ加ヘ又ハ製本ノ式ヲ改メ又ハ冊數ヲ分合スルカ爲メ變更スルコトナカル可シ

第十三條　特ニ世ニ有益ナル文書圖畫ニシテ版權年限間ノ利益其著作出版ノ勞力ト費用トヲ償ハサルノ事情アルモノニハ版權所有者ノ願出ニ依リ內務大臣ニ於テ仍ホ十年間版權保護ノ期限ヲ延ハスコトアル可シ

第十四條　文書圖畫ノ版權年限中所有者死亡シ他人ニ於テ其版權相續者ナキコトヲ確信シ之ヲ出版セント欲スルトキハ其由ヲ官報及東京ノ四社以上ノ重ナル新聞紙並其所有者居住地ノ新聞紙ニ七日以上廣告シ最終ノ廣告日ヨリ

六箇月內ニ版權相續者ノ出テサルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受ケテ之ヲ出版シ版權ヲ繼續スルコトヲ得

著作者又ハ相續者ヲ知ルヘカラサル著作ニシテ未タ出版セサルモノ亦前項ノ手續ニヨリ出版シ版權ノ保護ヲ受クルコトヲ得

第十五條　新聞紙又ハ雜誌ニ於テ二號以上ニ渉リ記載シタル論說記事又ハ小說ハ其編輯者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ刊行ノ月ヨリ二年內ニ之ヲ編纂シテ一部ノ書ト爲シ出版スルコトヲ得ス

其二年ヲ經ルト雖モ已ニ一部ノ書ト爲シ版權登錄ヲ經タ

ル者ハ原文ニ就テ更ニ編纂スルコトヲ得ス

第十六條　版權所有ノ文書圖畫ヲ僞版シタル者ハ其版權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス可シ其寫本ヲ發賣シテ版權ヲ犯ス者又同シ

第十七條　僞版ノ訴アリタルトキ裁判官ハ出訴者ノ情願アルニ於テハ假ニ其發賣頒布ヲ差止ルコトヲ得但審理ノ末僞版ニアラスト判決セラレタルトキハ出訴者ニ於テ其差止ヨリ生スル損害賠償ノ責ニ任ス可シ

第十八條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ僞版者ノ相續者ニ及フモノトス

第十九條　版權所有者ノ承諾ヲ經スシテ版權所有ノ文書圖畫ヲ翻譯增減シ註解附錄繪圖等ヲ加ヘ若クハ其未タ完結セサル部分ヲ續成シテ出版スル者及本條例第十五條ニ違フ者ハ僞版ヲ以テ論ス

他人ノ講義又ハ演說ヲ筆記シ其許諾ヲ經スシテ出版スル者又前項ニ同シ

第二十條　翻譯者ノ版權ハ其翻譯者ニ屬スト雖モ其原書ニ就キ別ニ翻譯スル者ニ向ヒ僞版ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但其既ニ出版スル所ノ翻譯ヲ剽竊シタルコトヲ證明スルモノハ此限ニアラス

第二十一條　世人ヲ欺瞞スル爲メ故ラニ版權所有ノ文書圖書ノ題號ヲ冒シ或ハ摸擬シ又ハ氏名社號屋號等ノ類似シタル者ヲ湊合シテ他人ノ版權ヲ妨害スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十二條　著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル文書圖書ヲ出版シ又ハ非賣ノ文書圖書ヲ翻刻スル者亦僞版ヲ以テ論ス

第二十三條　文書圖書ヲ寫眞ト爲シ因テ其版權ヲ犯ス者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十四條　內國ニテ版權所有ノ文書圖書ヲ外國ニ於テ僞版シタルモノヲ輸入販賣スル者ハ僞版ヲ以テ論ス

第二十五條　僞版ノ訴アリテ其僞版タルヤ否ヤヲ決シ難キトキハ其訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テ三名以上ノ鑑定書ヲ選ビ之ヲ鑑定セシムルコトアル可シ

第二十六條　僞版ニ關スル損害賠償ノ責ハ其原書ノ版權年限終ルノ後三年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

第二十七條　僞版者及情ヲ知ルノ印刷者販賣者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮若クハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

僞版ニ係ル刻版及印本ハ其何人ノ手ニ在ル問ヲハス之ヲ

沒收シ其既ニ販賣シタルモノナリ其賣得金ヲ沒收シテ併セテ被害者ニ下付ス

第二十八條　版權ヲ所有セサル文書圖畫ト雖モ之ヲ改竄シテ著作者ノ意ヲ害シ又ハ其表題ヲ改メ又ハ著作者ノ氏名ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作ト詐稱シテ翻刻スルヲ得ス違フ者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但著作者又ハ發行者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十九條　第三條ノ手續ヲ爲サスシテ版權所有ノ字ヲ記載シタル文書圖畫ヲ出版スル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第三十一條　此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ二年トシ其犯罪ト認メラレタル文書圖畫ヲ最後ニ發賣頒布シタル時ヨリ起算ス其發賣頒布セサルモノハ其最後ニ印刷シタル時ヨリ起算ス

第三十二條　現行ノ出版條例ニ據リ免許ヲ得タル版權ノ年限ハ現行條例ニ據リ計算スルモノトス

脚本樂譜條例

明治二十年十二月廿八日
勅令第七十八號

第一條　演劇脚本及樂譜ハ出版條例及版權條例ニ依リ之ヲ出版シ及版權ヲ所有スルコトヲ得

第二條　演劇脚本若クハ樂譜ヲ出版シテ版權ヲ所有スル者ハ版權年限中ハ其興行權(即チ利益ノ爲メ公衆ノ前ニ演スルノ權)ヲ併セ有スルコトヲ得但興行權ヲ有セントスルトキハ其脚本又ハ樂譜ニ興行權所有ノ五字ヲ記職ス可シ

第三條　演劇脚本及樂譜ノ興行權ハ制限ヲ附シ若クハ付セスシテ之ヲ賣渡シ讓渡スコトヲ得

第四條　演劇脚本若クハ樂譜ノ興行權ヲ犯シタル者ハ興行

權所有者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任ス可シ著作者又ハ其相續者ノ承諾ヲ經スシテ未タ出版セサル脚本若クハ樂譜ヲ興行スル者亦同シ

第五條　興行ニ關スル損害賠償ノ責ハ興行權ヲ犯シタル最終ノ月ヨリ一年ヲ以テ期滿得免ノ期トナス

新聞紙條例　明治二十年十二月廿八日　勅令第七十五號

第一條　新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳（東京府ハ警視廳）ヲ經由シテ內務省ニ屆出可シ

第二條　新聞紙發行ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載ス可シ

一　題號
二　記載ノ種類
三　發行ノ時期
四　發行所及印刷所
五　發行人編輯人及印刷人ノ氏名年齡

編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルコトヲ得

第三條　屆出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出可シ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以內ニ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出可シ

第四條　發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週日以內ニ發行人ヲ定メ第一條ノ手續ニ從ヒ屆出可

シ其屆出ヲナスマテハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條　發行ノ屆出ヲナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セサルトキハ其屆出ノ効ヲ失フモノトス

第六條　內國人ニシテ滿二十歲以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人トナルコトヲ得ス

第七條　編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條　發行人ハ保證トシテ左ノ金額ヲ屆書ト共ニ管轄廳

東京府ハ警視廳ニ納ムル可シ

一　東京ニ於テハ千圓

一　京都大阪横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一　其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一　一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額

保證金ハ時價ニ準シタル公債證書又ハ國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學術、技藝、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事項ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニアラス

第九條　保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條　第一條第三條第四條ノ屆出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ屆出ヲナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條　新聞紙ハ毎號ニ發行人、印刷人、編輯人、ノ氏名發行所ヲ記載ス可シ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名スル者ハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條　新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ內務省ニ二部管轄廳東京府ハ警視廳及管轄始審裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ム可シ

第十三條　新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付キ其事項ニ關スル當人又ハ關係アル者ヨリ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求ヲ受ケタル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄內ノ首部ニ掲載ス可シ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ルヽトキ又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサルトキハ掲載スルヲ要セス

第十四條　官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄錄セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ス可キコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條　新聞紙ニ記載シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載ス可シ

第十六條　重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條　刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸ソタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條　公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ存ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ラス之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條　治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ內務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條　新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ內務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條　外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨